

三酸化アンチモンの国内最大手である日本精鉱は、2012年度の連結営業利益10億円を目標とする中期経営計画をスタートさせた。足元の需要動向や今後の収益拡大策などを福井秀明社長に聞いた。

日本精鉱 福井秀明社長

—10年3月期は2期連続の最終損失だった。属粉も電気と自動車業界の回復に伴って右肩上がりで増え、1-3月期は崩した影響が大きかった。販売数量自体はアンチモンが下期に通常の9割まで回復してきた。子会社の日本アトマイズ加



—現在の需要はどうか。

「アンチモンは昨年度以降の回復の流れが続いている。6月以降も需要が落ちるといふ話は聞か。こえてこないため、しばらく好調な状態が続くとみている。金属粉も順調

トップに聞く

Interview

だ。とくに微粉が好調に推移している。アジア向けの輸出が伸びており、フル操業は今後も続く見通しだ。—アンチモン地金の価格が3月末から急騰している。

「つながら。このため環境対策などの検査をして市への基準を満たした会社から順次操業を再開させていくだろう」

「4月にキロ2500円の大増産品値上げを要請した。値上げ幅が大き過ぎるといふ危言もあったが、認めていただけです」

「前中期計画でも話を進めていたが、リーマン・ショックによる景気悪化で交渉を中断していた。今年度中に実現させるつもりで交渉を再開した」

「新しい生産体制を構築する。今の工場が手狭になっていることもある」

フル操業今後も持続 中国合弁へ交渉再開

「世界最大の生産国である中国西部の干ばつと湖南省冷水江市のアンチモン精錬企業に対する操業中止命令を背景に、トレーダーなどが意図的に価格を引き上げた。ただ干ばつについては同地域が雨期に入っており問題は解決した。もう一方の冷水江市だが、操業停止が続けば市の税収減に

「世界最大の生産国である中国西部の干ばつと湖南省冷水江市のアンチモン精錬企業に対する操業中止命令を背景に、トレーダーなどが意図的に価格を引き上げた。ただ干ばつについては同地域が雨期に入っており問題は解決した。もう一方の冷水江市だが、操業停止が続けば市の税収減に

「世界最大の生産国である中国西部の干ばつと湖南省冷水江市のアンチモン精錬企業に対する操業中止命令を背景に、トレーダーなどが意図的に価格を引き上げた。ただ干ばつについては同地域が雨期に入っており問題は解決した。もう一方の冷水江市だが、操業停止が続けば市の税収減に

「世界最大の生産国である中国西部の干ばつと湖南省冷水江市のアンチモン精錬企業に対する操業中止命令を背景に、トレーダーなどが意図的に価格を引き上げた。ただ干ばつについては同地域が雨期に入っており問題は解決した。もう一方の冷水江市だが、操業停止が続けば市の税収減に

「世界最大の生産国である中国西部の干ばつと湖南省冷水江市のアンチモン精錬企業に対する操業中止命令を背景に、トレーダーなどが意図的に価格を引き上げた。ただ干ばつについては同地域が雨期に入っており問題は解決した。もう一方の冷水江市だが、操業停止が続けば市の税収減に